

資料－１

札幌開発建設部 ダム事業費等監理委員会資料

～幾春別川総合開発事業～

令和５年８月８日
国土交通省 北海道開発局
札幌開発建設部



北海道開発局ホームページへはこちらから。

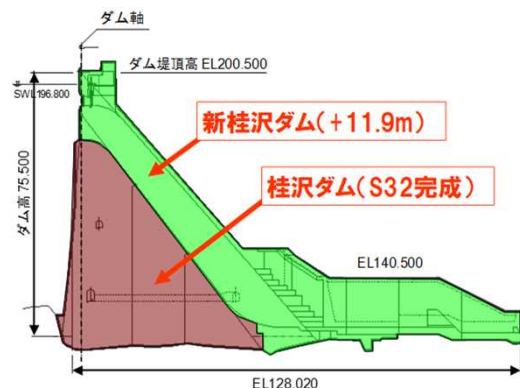


1. 幾春別川総合開発事業について
2. 事業の進捗状況について
3. コスト縮減について
4. まとめ

1. 幾春別川総合開発事業について

幾春別川総合開発事業は、石狩川水系の幾春別川に昭和32年に建設された桂沢ダムをかさ上げする「新桂沢ダム」と、幾春別川支流の奔別川に新設する「三笠ぽんべつダム」から構成され、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、工業用水の供給、発電を目的としています。

- 目的 洪水調節（石狩川、幾春別川の洪水防御）
流水の正常な機能の維持
水道用水の供給（桂沢水道企業団：最大0.1m³/s）
工業用水の供給（北海道：最大0.149m³/s）
発電（電源開発株式会社：最大17,290kW）
- 諸元 新桂沢ダム：重力式コンクリートダム
高さ75.5m, 堤頂長397.0m, 総貯水容量1億4,730万m³
三笠ぽんべつダム：台形CSGダム
高さ53.0m, 堤頂長173.5m, 総貯水容量 862万m³
- 工期 昭和60年度～令和12年度
- 総事業費 約1,667億円
- 執行状況 令和4年度まで 約1,265億円（約76%）
令和5年度予算 約 36億円



新桂沢ダムのかさ上げ(イメージ図)



新桂沢ダム



三笠ぽんべつダム

ダム完成予想図



石狩川流域図

昭和32年度	・桂沢ダム完成
昭和56年度	・石狩川氾濫（台風12号により観測史上最大規模の大洪水）
昭和60年度	・実施計画調査着手（S60.4）
平成2年度	・建設事業着手（H2.6）
平成5年度	・環境影響評価書公示
平成6年度	・幾春別川総合開発事業基本計画策定（H6.8）、三笠ぽんべつダム工事用道路着手
平成13年度	・新桂沢ダム取水放流設備工事着手
平成16年度	・石狩川水系河川整備基本方針策定（H16.6）
平成17年度	・石狩川水系幾春別川河川整備計画策定（H18.3）
平成20年度	・幾春別川総合開発事業基本計画変更（第1回）（H20.11）
平成21年度	・検証の対象とするダム事業に選定（H21.12）
平成24年度	・「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」による事業再評価（H24.12） ・ダム検証に係る国土交通省の対応方針の決定（継続）（H25.1）
平成26年度	・幾春別川総合開発事業基本計画変更（第2回）（H26.5）
平成27年度	・新桂沢ダム基礎掘削着手（H27.8）
平成29年度	・新桂沢ダム本体打設開始（H29.7）
平成30年度	・北海道胆振東部地震（H30.9） ・幾春別川総合開発事業基本計画変更（第3回）（H30.12）
令和3年度	・幾春別川総合開発事業基本計画変更（第4回）（R3.8）
令和4年度	・三笠ぽんべつダム基礎掘削着手（R4.9） ・三笠ぽんべつダム堤体建設第1期工事契約（R5.3）

平成30年度まで

札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会

適切な事業実施の観点から、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について審議

令和元年度

幾春別川総合開発事業マネジメント委員会

北海道胆振東部地震等の自然現象、物価上昇等が生じている幾春別川総合開発事業における、事業マネジメントの一層の充実を図るため、新たに幾春別川総合開発事業マネジメント委員会を設置し、事業の進捗状況及び見通し、コスト縮減策について審議

令和2年度

委員会意見

事業の見通し及びコスト縮減について妥当性の観点から審議した結果、自然現象、現場条件の変更、経済・社会状況の変化の要因に起因して生じた個々の事象とそれらの事象による事業費や工期への影響等が理解できるものであることから、引き続き一層のコスト縮減をはじめとした事業監理の徹底を図ることとして、事業費の増加と工期の延伸については、やむを得ないとする。

令和3年度～

札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会

幾春別川総合開発事業マネジメント委員会の審議などの取り組みを踏まえ、事業監理の更なる強化を図り、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について審議

2. 事業の進捗状況について

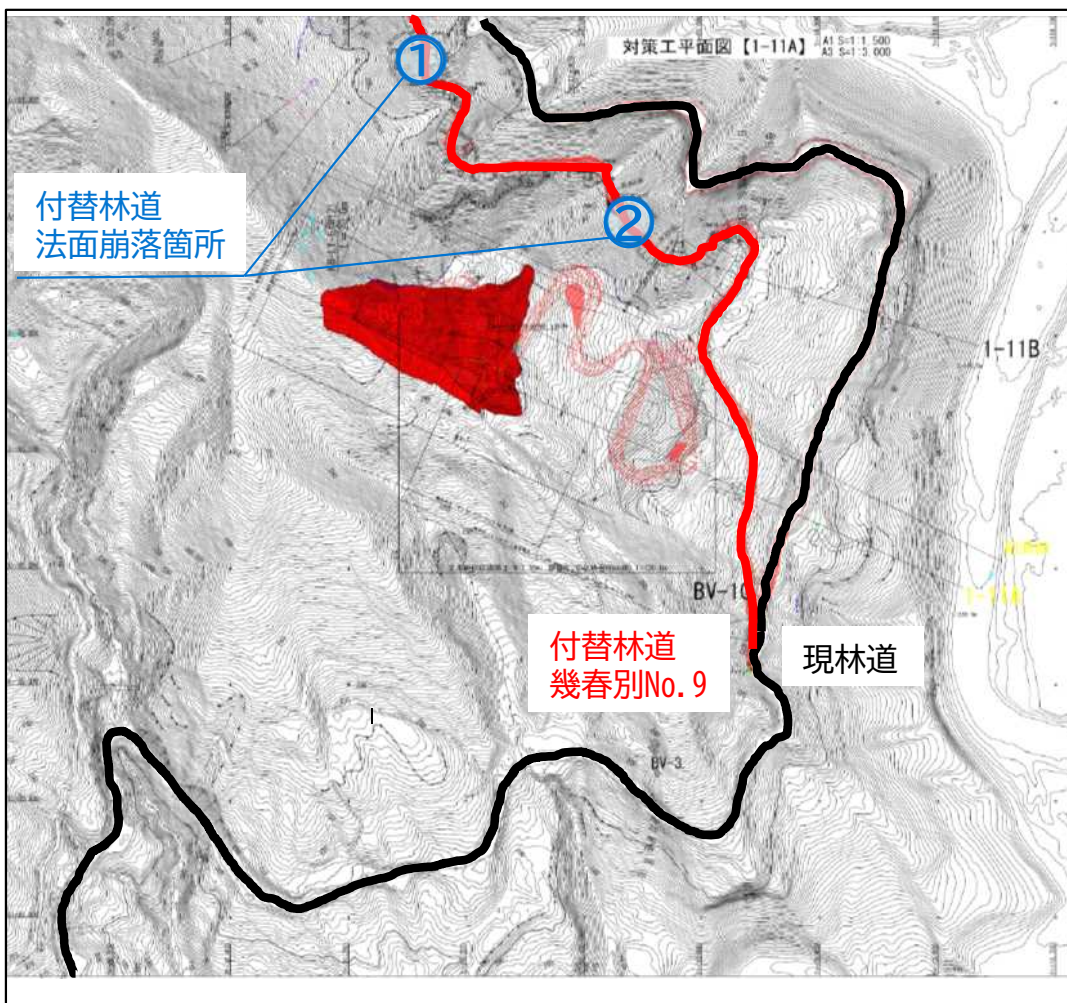
- 7

- 貯水池周辺でクマタカ（希少種の猛禽類）の抱卵・育雛を確認したため工程を見直しました。
- クマタカ育雛は順調であり、工程見直し後は、幼鳥を監視・馴化を行いながら工事を進めることが出来たため増額は軽微なものでした。

※希少野生動植物種等に関する情報のため一部非公表としています

付替林道の変状について (P7 B箇所) ※令和4年度に報告済

- 令和4年度 早期着工に向けた除雪作業を実施したところ、過年度に施工した付替林道で法面崩落を確認し、運搬路の通行に支障があったため、コンクリート吹付工 ($t=0.1\text{m}$) による対策を行いました。
- 事業費に与える影響を精査した結果、増額は軽微なものでした。また、試験湛水の開始には影響がないことを確認しています。



令和4年4月6日 法面崩落確認

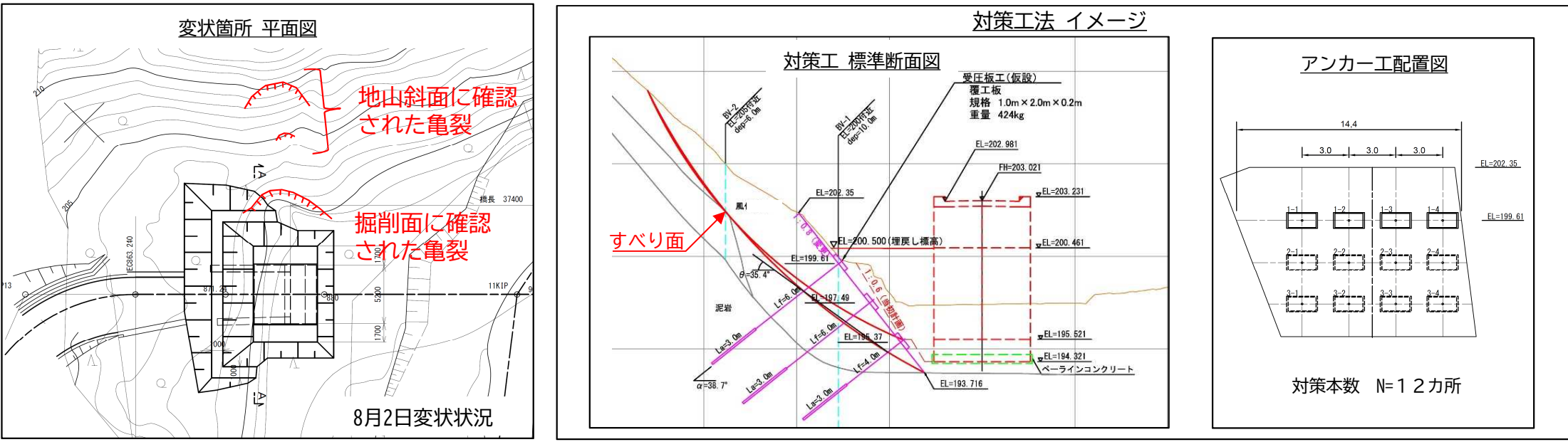


令和4年6月8日 対策工完了



付替林道の変状について (P7 箇所)

- 令和4年8月2日に菊面沢橋A1橋台の掘削面及び上方の地山斜面に亀裂を確認し、ボーリング調査による地質状況確認及び対策工を検討しました。
- 地質調査を踏まえた検討の結果、泥質で脆弱な層が厚く分布していることから、法面对策としてアンカー工が必要になりました。
- 事業費に与える影響を精査した結果、増額は軽微なものでした。また対策の実施に伴い工程を見直しましたが（下掲工事工程参照）、試験湛水の開始には影響がないことを確認しています。



■ 菊面沢橋 工事工程

工種	数量	2022年度 (令和4年)												2023年度 (令和5年)											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
菊面沢橋	37m	当初																							

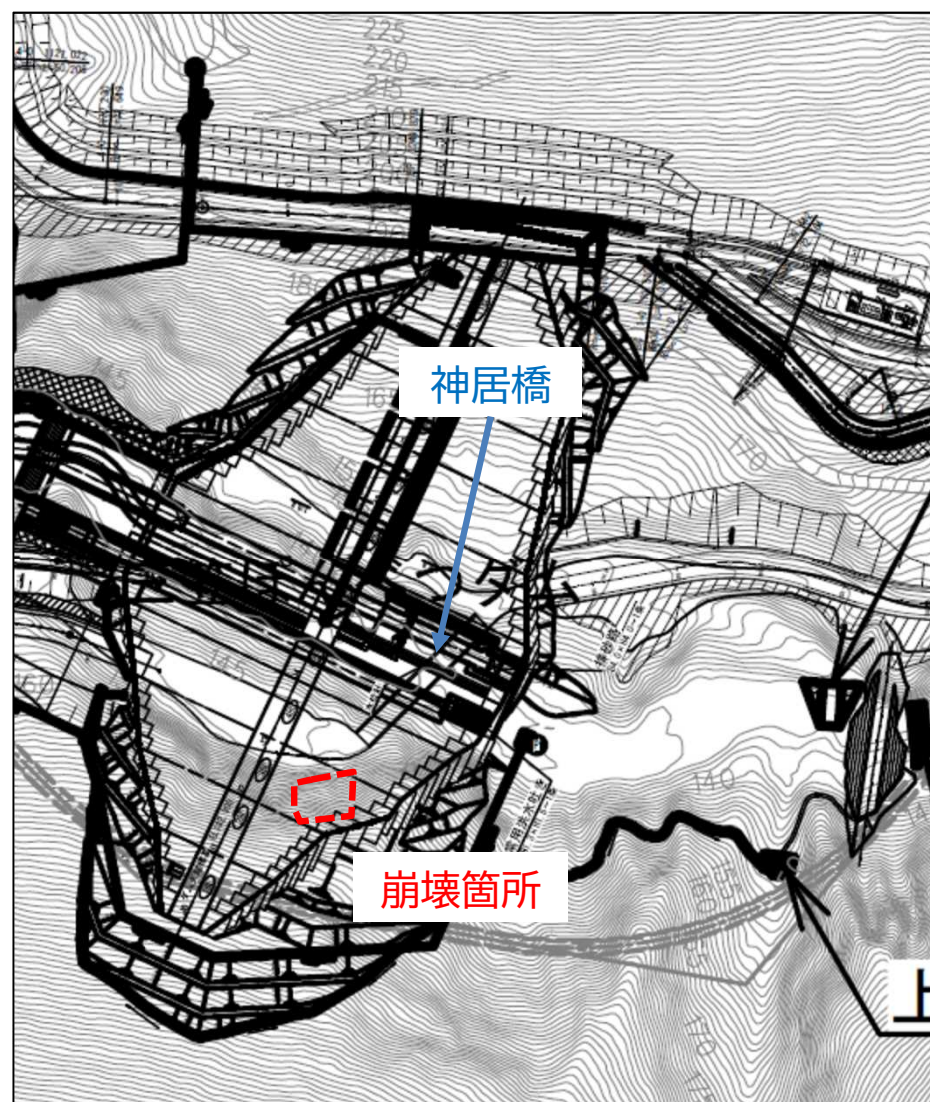
令和4年8月2日 亀裂状況確認



令和4年11月25日 アンカー工完成状況



- 三笠ぽんべつダムのダムサイト左岸近傍で令和4年6月2日に岩盤の小崩壊を確認し、道路管理者と協議の上応急復旧を令和4年7月1日に完了しました。
- 基礎掘削すべき岩盤が小崩壊したものであり、事業費・工程への影響はないと考えています。

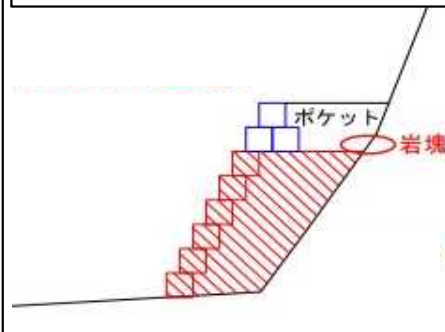


令和4年6月2日 岩盤小崩壊確認



応急復旧イメージ

- ・ ハングしている岩盤箇所まで土足場を造成
- ・ バックホウで浮石を除去する。
- ・ 落石対策として土足場肩に土のうを積みポケットを作る。



新桂沢ダム_令和4年度の実施を踏まえた工程

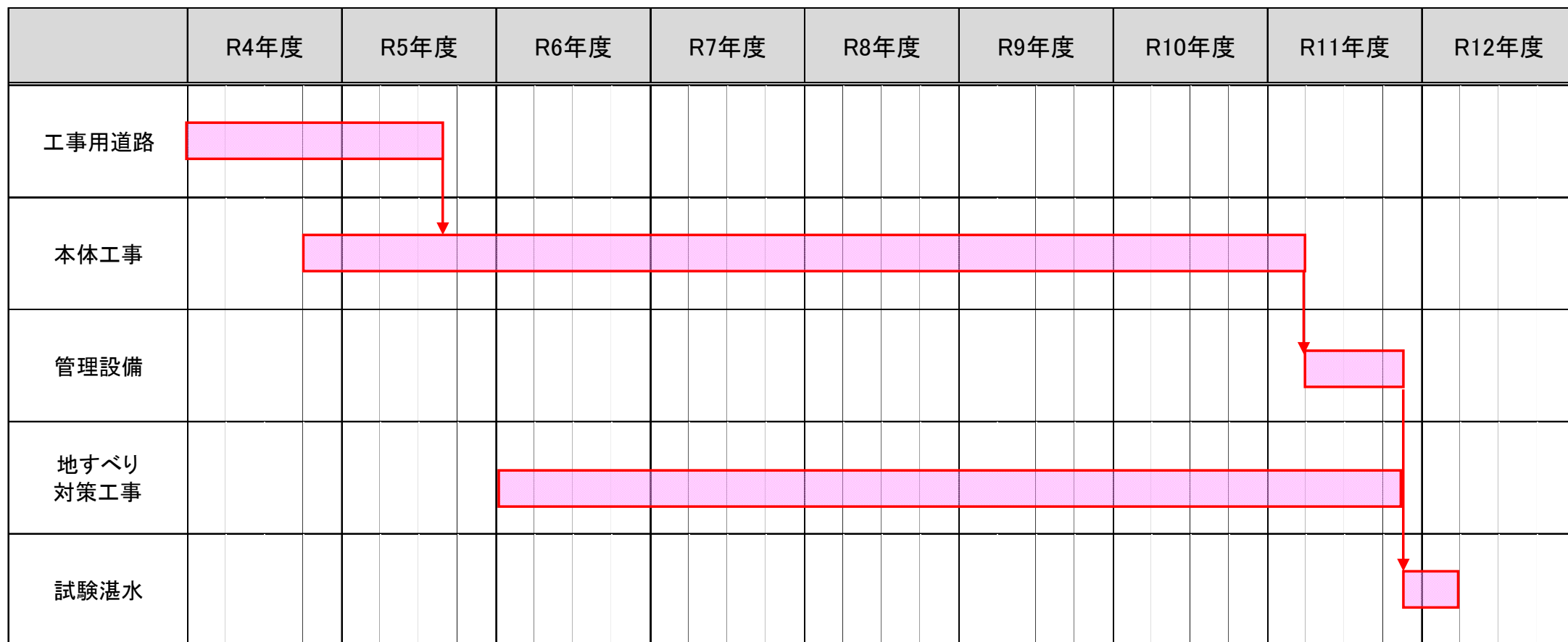
- 新桂沢ダムの本体工事、管理設備、地すべり対策工事において、事業費・工期に影響を及ぼす事象は発生していません。
- 試験湛水完了後（R6以降）、引き続き旧道撤去、地すべり対策箇所の植生回復等の施工を予定しています。

	R4年度				R5年度			
本体工事								
管理設備								
地すべり 対策工事								
付替道路 工事								
試験湛水								

※ 今後、工程に影響のある事象が発生した場合には、見込みどおりとならない場合がある。

三笠ぽんべつダム_令和4年度の実施を踏まえた工程 国土交通省

- 三笠ぽんべつダムの堤体基礎掘削工事、機械設備工事、工事用道路工事において、事業費・工期に影響を及ぼす事象は発生していません。



※ 今後、工程に影響のある事象が発生した場合には、見込みどおりとならない場合がある。

総事業費	令和5年度	令和6年度以降
約1,667億円	約36億円	約368億円

※ 令和5年度予算は当初予算に基づく。

令和6年度以降の残事業費

新桂沢ダム	旧施設撤去工事等	約76億円
三笠ぽんべつダム	堤体工、地すべり 対策工事等	約264億円
共通経費	工事諸費	約27億円
計		約368億円

※ 端数処理のため、合計が一致しない場合がある。
 ※ P41のコスト縮減状況を反映していない

新桂沢ダム	堤体工、地すべり 対策工事等	約22億円
三笠ぽんべつダム	本体工事、本体関 連工事等	約12億円
共通経費	工事諸費	約3億円
計		約36億円

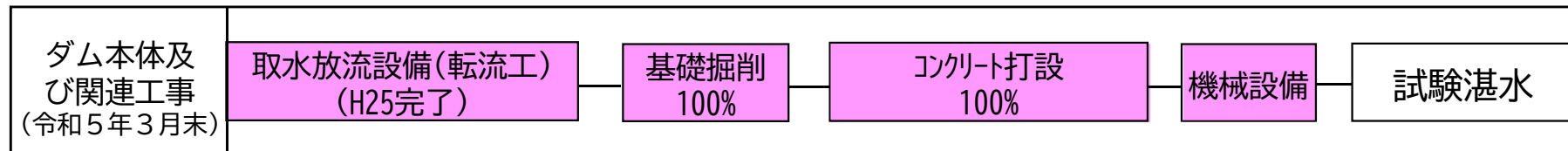
※ 令和5年度予算は当初予算に基づく。

※ 端数処理のため、合計が一致しない場合がある。



令和5年度工事状況_堤体本体・周辺整備工事

- 令和5年度は、堤体周辺の舗装等の周辺整備を実施予定です。また、秋には試験湛水を開始予定です。



新桂沢ダム堤体本体 令和4年6月撮影

令和5年度工事状況_地すべり対策工事

- 新桂沢ダムの地すべり対策箇所は全19箇所のうち、令和5年度は7箇所の対策工を予定しております。
- なお、令和4年度末までに12箇所の対策工が完了しております。

地すべり対策工事



凡例	
	実施済み
	令和5年度実施

地区	R4年度	対策状況	R5年度
① 1-1A		済み	
② 1-1B	○		○
③ 1-4A	○	済み	
④ 1-5大	○		○
④ 1-5小			
⑤ 1-6	○	済み	
⑥ 1-11A	○		○
⑦ 2-7A	○	済み	
⑧ 2-7B	○		○
⑨ 2-19		済み	
⑩ 3-10	○		○
⑪ 3-36A	○	済み	
⑫ 3-37A	○	済み	
⑬ 3-37B	○	済み	
⑭ 3-39A	○	済み	
⑮ 3-43		済み	
⑯ 3-44C		済み	
⑰ 3-45	○	済み	
⑱ 3-47	○		○
⑲ 4-9	○		○
全 19 箇所	15 箇所	12 箇所	7 箇所

令和5年度工事状況_地すべり対策工事

- 1-1B地すべり対策工 : 盛土工 約2万m³
- 1-5 (大) 地すべり対策工 : 盛土工 約7万m³
- 1-5 (小) 地すべり対策工 : 鋼管杭 63本
- 2-7B地すべり対策工 : 盛土工 約2万m³

1-1B地すべり対策工
盛土工 (R4.11撮影)



1-5 (大) 地すべり対策工
盛土工 (R4.11撮影)



2-7B地すべり対策工
盛土工 (R4.11 撮影)



※工事数量は予定数量である

- 3-47地すべり対策工：盛土工 約0.4万m³ 護岸工 1式
- 1-11A地すべり対策工：排土工 約0.7万m³

3-47地すべり対策

盛土工 (R4.11撮影)



3-47地すべり対策

盛土工 (R5.5撮影)



- 3-10地すべり対策工：盛土工 約0.4万m³
- 4-9地すべり対策工：排土工 約0.8万m³ 盛土工 約0.2万m³

3-10地すべり対策工

盛土工 (R4.11撮影)



4-9地すべり対策工

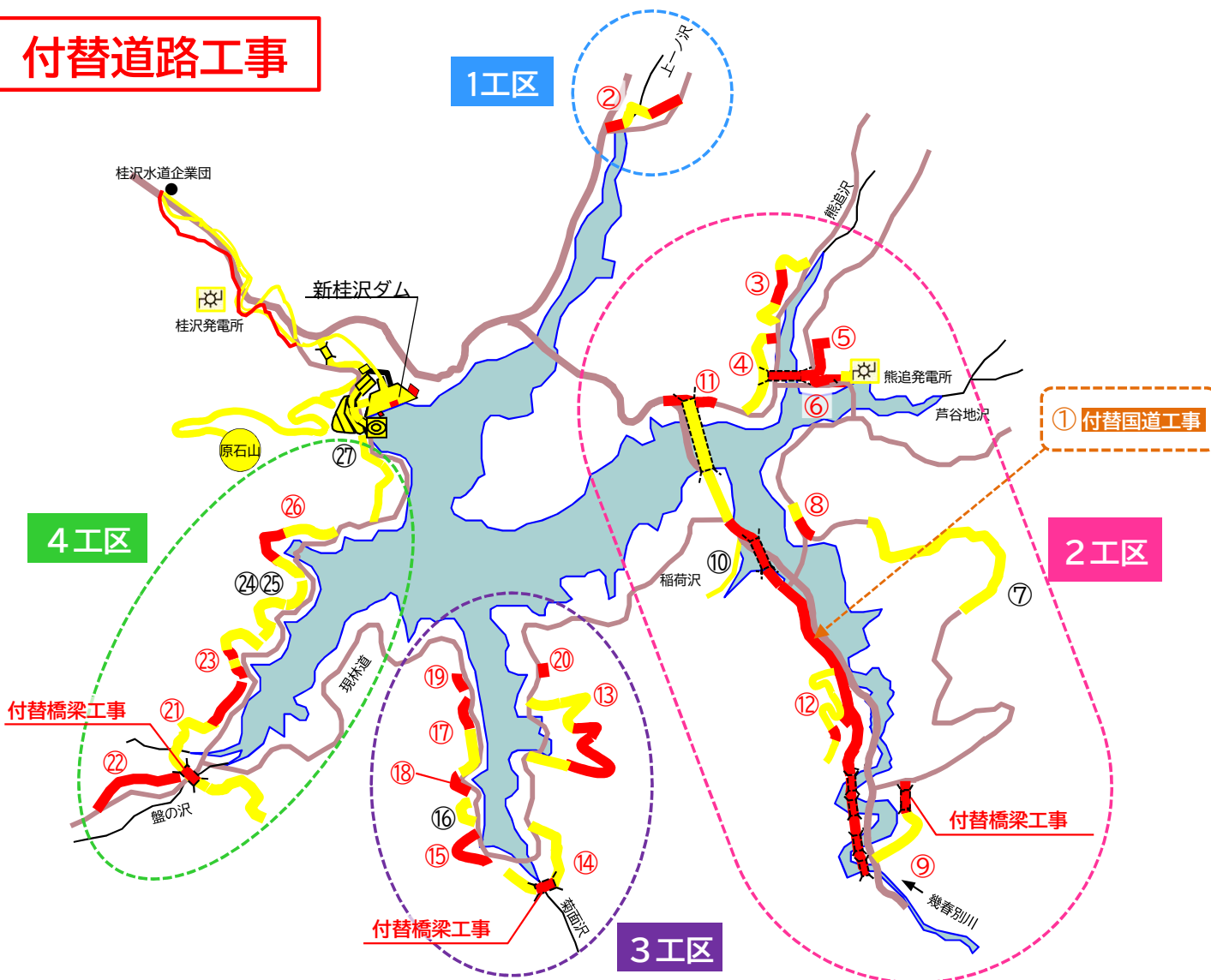
排土工 盛土工 護岸工 (R4.11撮影)



令和5年度工事状況_付替道路工事

- 新桂沢ダムの付替道路は全27路線のうち、令和5年度は21路線の付替道路工事を予定しております。
- なお、令和4年度までに6路線が付替済みです。

付替道路工事



凡例	
	実施済み
	令和5年度実施

路線			R4年度	付替状況	R5年度
①	国道452号	国道	○		○
②	上一の沢	1工区	○		○
③	熊追沢No.1	2工区	○		○
④	熊追沢No.2		○		○
⑤	芦別越		○		○
⑥	桂沢No.1		○		○
⑦	桂沢No.2			済み	
⑧	桂沢No.2-2		○		○
⑨	左股沢	3工区	○		○
⑩	稲荷沢			済み	
⑪	桂沢No.3				○
⑫	国道452号取付				○
⑬	幾春別No.2	4工区	○		○
⑭	幾春別No.3		○		○
⑮	幾春別No.3-2				○
⑯	幾春別No.4			済み	
⑰	幾春別No.10		○		○
⑱	幾春別No.11		○		○
⑲	幾春別No.12	4工区			○
⑳	幾春別No.13				○
㉑	幾春別No.5		○		○
㉒	盤の沢				○
㉓	幾春別No.6				○
㉔	幾春別No.7		○	済み	
㉕	幾春別No.7-2		○	済み	
㉖	幾春別No.8		○		○
㉗	幾春別No.9			済み	

全 27路線

16 路線

6 路線

21 路線

- 上一の沢付替林道：掘削0.2万m³ 盛土0.2万m³ 排水工1式

上一の沢付替林道
掘削 (R4.11撮影)



上一の沢付替林道
状況写真 (R5.7撮影)



※工事数量は予定数量である

令和5年度工事状況_付替道路工事 2工区

- 熊追沢No.1付替林道：掘削0.1万m³
- 熊追沢No.2付替林道：掘削1万m³ 盛土0.1万m³ 排水工1式
- 芦別越付替林道：盛土0.6万m³ 排水工1式 擁壁工1式
- 桂沢No.1付替林道：掘削0.1万m³ 盛土3万m³ 排水工1式 擁壁工1式 護岸工1式
- 桂沢No.2付替林道：盛土0.4万m³ 排水工1式 擁壁工1式
- 左股沢付替林道：掘削0.3万m³ 盛土0.2万m³ 排水工1式 橋梁上部工1式
- 桂沢No.3付替林道：盛土0.1万m³
- 国道452号取付林道：盛土0.1万m³ 排水工1式 擁壁工1式

熊追沢No.2付替林道 掘削工 盛土工 排水工 (R4.11撮影)



熊追沢No.2付替林道 施工状況 (R5.7撮影)



※工事数量は予定数量である

- 幾春別No.2付替林道：掘削1万m³ 盛土0.5万m³ 排水工1式 擁壁工1式
- 幾春別No.3付替林道：橋梁下部工1式 橋梁上部工1式
- 幾春別No.3-2付替林道：盛土0.4万m³ 排水工1式
- 幾春別No.10付替林道：掘削0.1万m³
- 幾春別No.11付替林道：盛土0.3万m³ 排水工1式 擁壁工1式
- 幾春別No.12付替林道：盛土0.1万m³ 排水工1式
- 幾春別No.13付替林道：排水工1式

幾春別No.2付替林道 掘削工 (R4.11撮影)



幾春別No.2付替林道 掘削工 (R5.6撮影)



- 幾春別No.5付替林道：掘削0.7万m³ 盛土0.5万m³ 排水工1式 橋梁上部工1式
- 盤の沢付替林道：掘削1万m³ 盛土0.3万m³ 排水工1式 擁壁工1式
- 幾春別No.6付替林道：掘削0.1万m³ 擁壁工1式
- 幾春別No.8付替林道：掘削3万m³ 盛土0.8万m³ 排水工1式

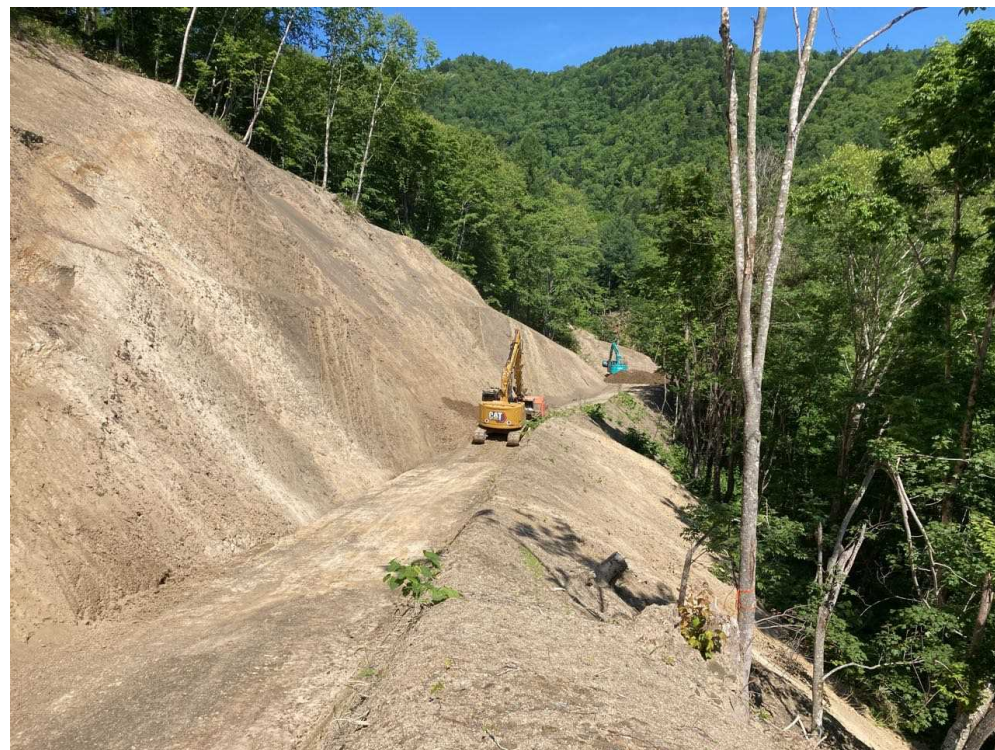
幾春別No.8-7付替林道

掘削工 排水工 (R4.11撮影)



幾春別No.8付替林道

掘削工 (R5.6撮影)



※工事数量は予定数量である

- 幾春別No.3付替林道：橋梁下部工1式 橋梁上部工1式

幾春別No.3付替林道 橋梁下部工 (R5.6撮影)



※工事数量は予定数量である

令和5年度工事状況_付替道路工事

国道452号付替国道

- 掘削工 約2.0万m³
- 法枠工 約0.2万m²

- 排水構造物工 一式
- 表層 約2.5万m²

掘削 (R5.6 撮影)



排水構造物工 (R5.6 撮影)



法枠工 (R5.6 撮影)



舗装工 (R5.6 撮影)



※工事数量は予定数量である

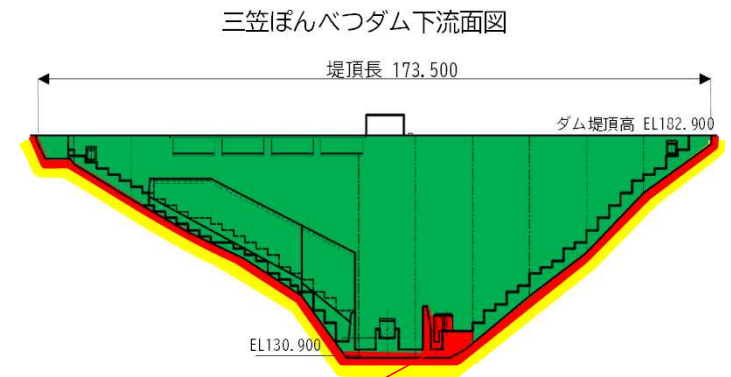
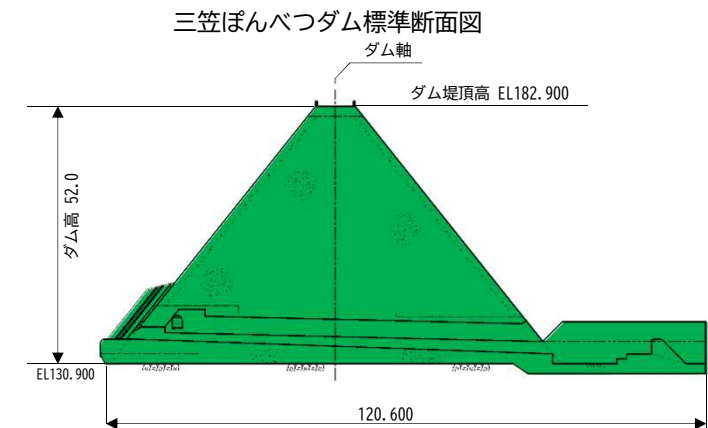
令和5年度工事予定_三笠ぽんべつダム

- 令和5年度の三笠ぽんべつダムに関する工事予定箇所は下図のとおりです。

凡例	
	現道
	実施済み
	令和5年度
	令和6年度以降



※地すべり対策工については、調査結果、専門家との協議を踏まえ、対策箇所数を10箇所から6箇所に見直しています。



水位低下設備外機械設備新設工事

- 堤体基礎掘削工事
 - : 掘削工 約4万m³
 - : 法面工 グラウンドアンカー約280本

上流より (R5.7撮影)



右岸 (R5.7撮影)



左岸 (R5.7撮影)



- 機械設備工事 : 摩耗対策工（排砂路、常用洪水吐き） 1式

工場検査
(R5.3撮影)



工場検査
(R5.3撮影)



- 工事用道路 : 掘削工 約3千m³
: 法面工 グラウンドアンカー約90本
- 橋梁工事 : 橋台2基 橋脚1基

橋梁工事 (R5.7撮影)



法面工 (R5.1撮影)



掘削工 (R4.8撮影)



- 施工設備仮設工 : バッチャープラント等 1式 濁水処理設備工 1式

施工設備仮設工 (R5.7撮影)

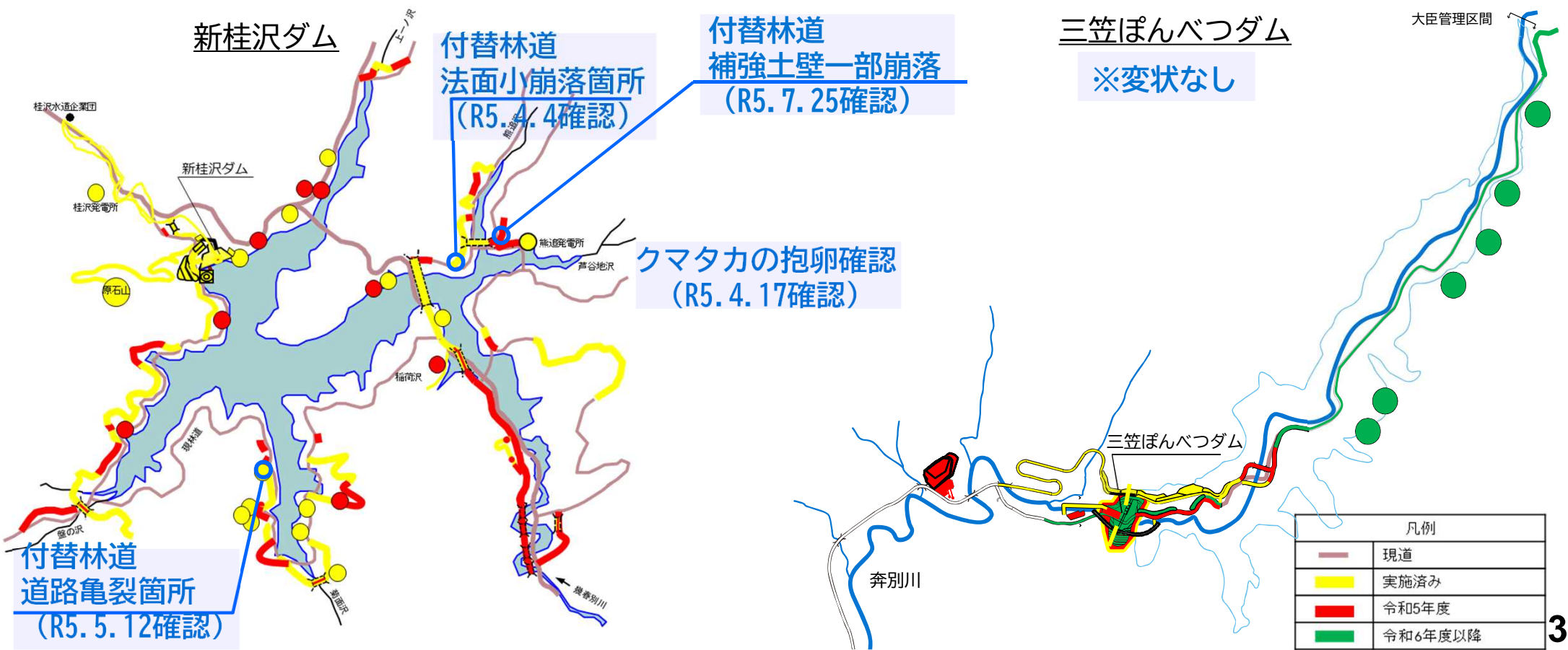


濁水処理設備工 (R5.7撮影)

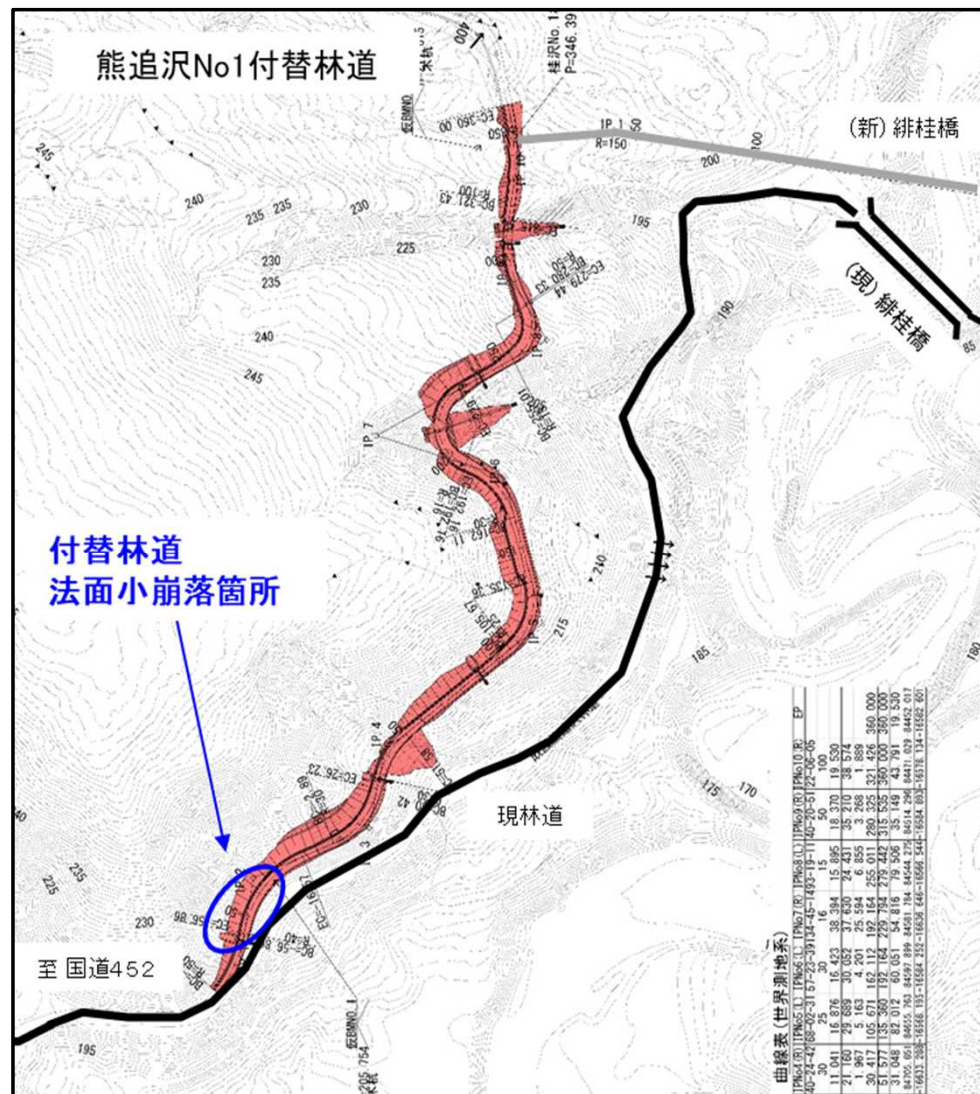


令和5年度 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

- 4月4日に熊追沢No1林道にて小規模な崩落を確認しました。その後、5月12日の融雪後現場点検にて崩落の進行を確認しました。
- 5月12日の点検にて新たに幾春別No10林道にて道路に小規模な亀裂を確認しました。
- 7月25日新桂沢ダム付替林道工事箇所で補強土壁の一部崩落を確認しました。
- 4月17日の調査でクマタカ（希少種の猛禽類）の抱卵を確認しています。影響範囲内での工事予定はありませんが、工事用車両の通行には十分配慮いたします。

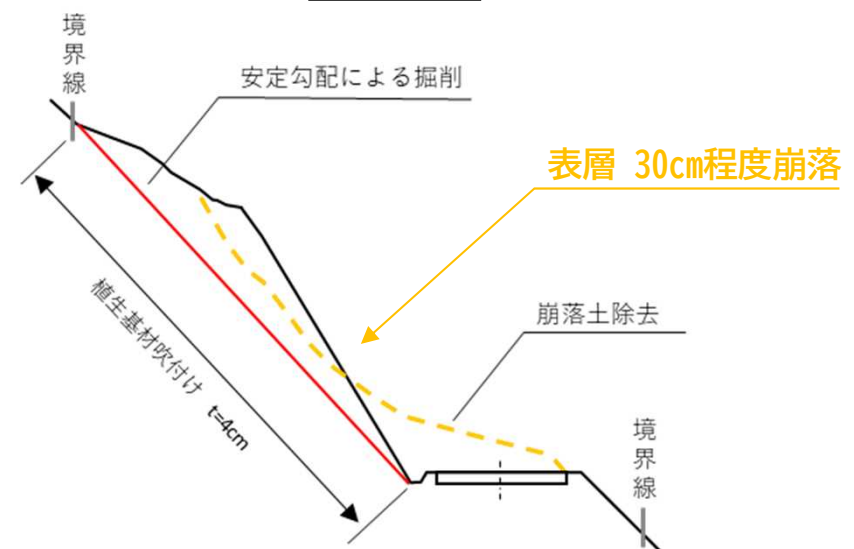


- 雪解け状況を踏まえ現地確認したところ、令和4年度に施工した付替林道で4月4日に小規模な法面崩落を確認しました。その後、5月12日に融雪後現場点検を行った結果、崩落の進行を確認しました。
- 崩落箇所において、6月14日に崩落した法面に植生基材吹付工（ $t=4\text{ cm}$ ）による対策を実施しました。軽微な対応であり、事業費・工程への影響はないと考えます。



地山法面一部崩落

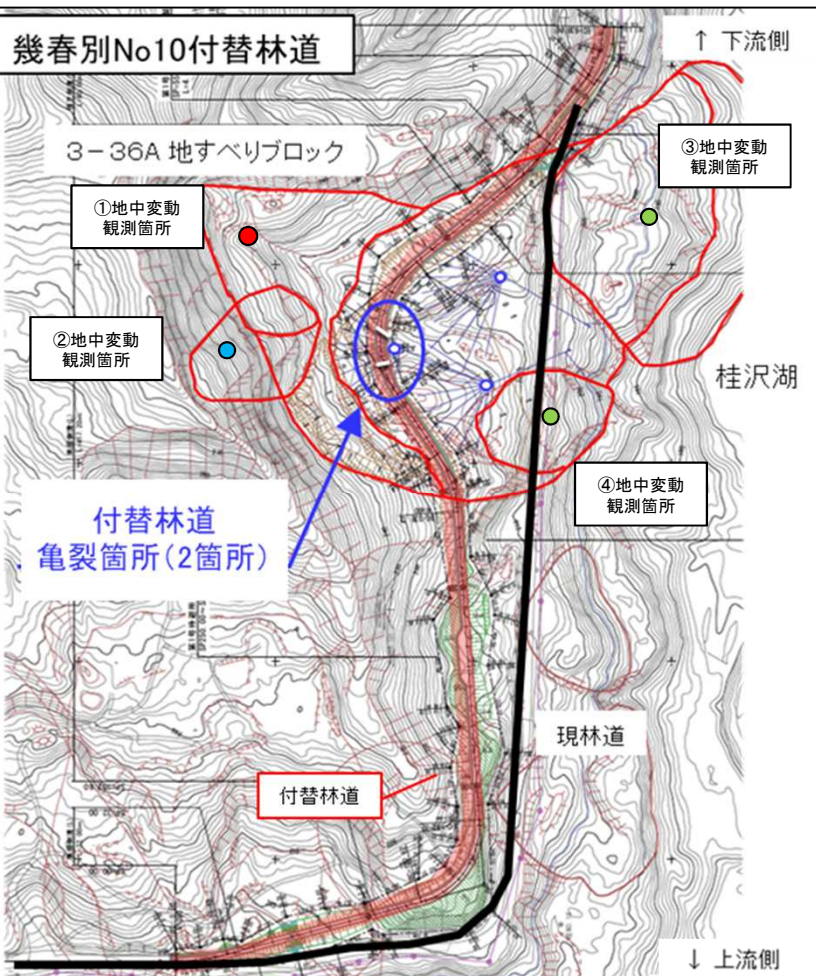
標準断面図



令和5年度 事業費・工程に影響を与える可能性がある事象

- 融雪後現地地点検したところ、令和4年度までに、地下水排除工・排土工を施工した地すべりブロック3-36A箇所の付替林道で、5月12日に小規模な道路亀裂を確認しました。
- 3-36Aは滑動している地すべりブロックであったため対策工を実施。近年 顕著な変動がないことを確認しております。また、道路亀裂発生に伴い、5月25日より伸縮計を設置し状態を把握していますが、地すべりブロックの地中変動と道路亀裂の伸縮計の変位が連動していないことを確認しております。
- 上記より、地すべり全体として顕著な変動がないと考えており、事業費・工程への影響はないと考えます。

幾春別No10付替林道



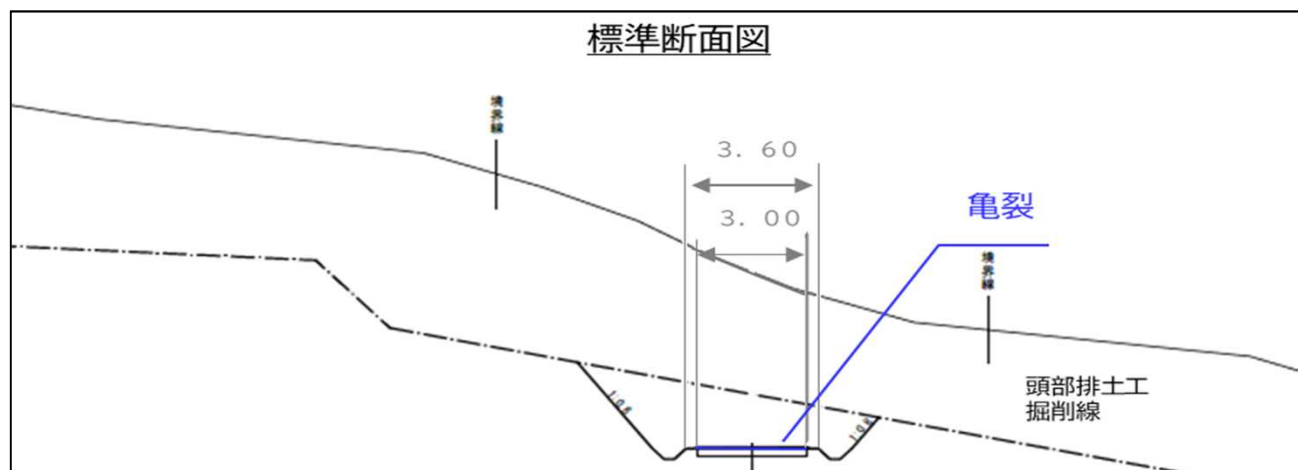
凡 例

	変動状況		滑動状況
	対策工施工前	対策工施工後	
●	変動あり	変動あり	継続
●	変動あり	変動なし	沈静化
●	変動なし	変動なし	変動なし

亀裂箇所



標準断面図



- 令和5年7月25日桂沢ダム流域では、一時、時間50ミリ以上の降雨があり、付替林道工事箇所で補強土壁の一部崩落を確認しました。現在復旧方針は、検討中です。



3. コスト縮減について

○第4回計画変更（R3.8）以降に確認あるいは達成された、事業費の増減をまとめました。（P41）

○引き続き、新たなコスト縮減対策として、他ダムで実績のある技術等の採用を検討するとともに、今後、新たに開発される新技術についても随時、本事業における適用を検討し、コスト縮減に努めてまいります（P42）。

第4回計画変更（R3.8）後の事業費増減

- 第4回計画変更後に生じたコスト増減について下表のとおりです。
- 総事業費約1,667億円の内、令和6年以降の事業費は約368億円であり、第4回計画変更後にコスト増減がありましたが、これまでの増減を合算すると約32億円縮減の見通しとなり、総事業費の内数に収まっています。
- 令和5年度も継続している地すべり対策工は、工事完了後、燃料費高騰などによる影響を精査する予定です。

コスト縮減の見通しのもの

	項目	理由	減額	備考
新桂沢ダム	地すべり対策工 (1-1B,1-5大 等)	・ 関係機関等により土砂を確保できたため。 ・ 関係機関協議によりダム湖水位を低下でき捨石から土砂へ材料を変更できたため。 等	約31億円	R4報告済
	原石山工事用 道路撤去	・ 撤去予定であった工事用道路を他機関が有効活用するため、撤去費用を減額 ・ 撤去範囲にかかる協議がまとまったため。 等	約8億円	R4報告済
	仮設備基礎の 有効活用	・ 仮設備の基礎コンクリートを活用することで、撤去する費用を削減 等	約2億円	R4報告済
	地すべり対策工 (2-19 等)	・ 試験施工により、想定よりも安価な工法で施工できたため。 等	約6億円	R4報告済

増額の見通しのもの

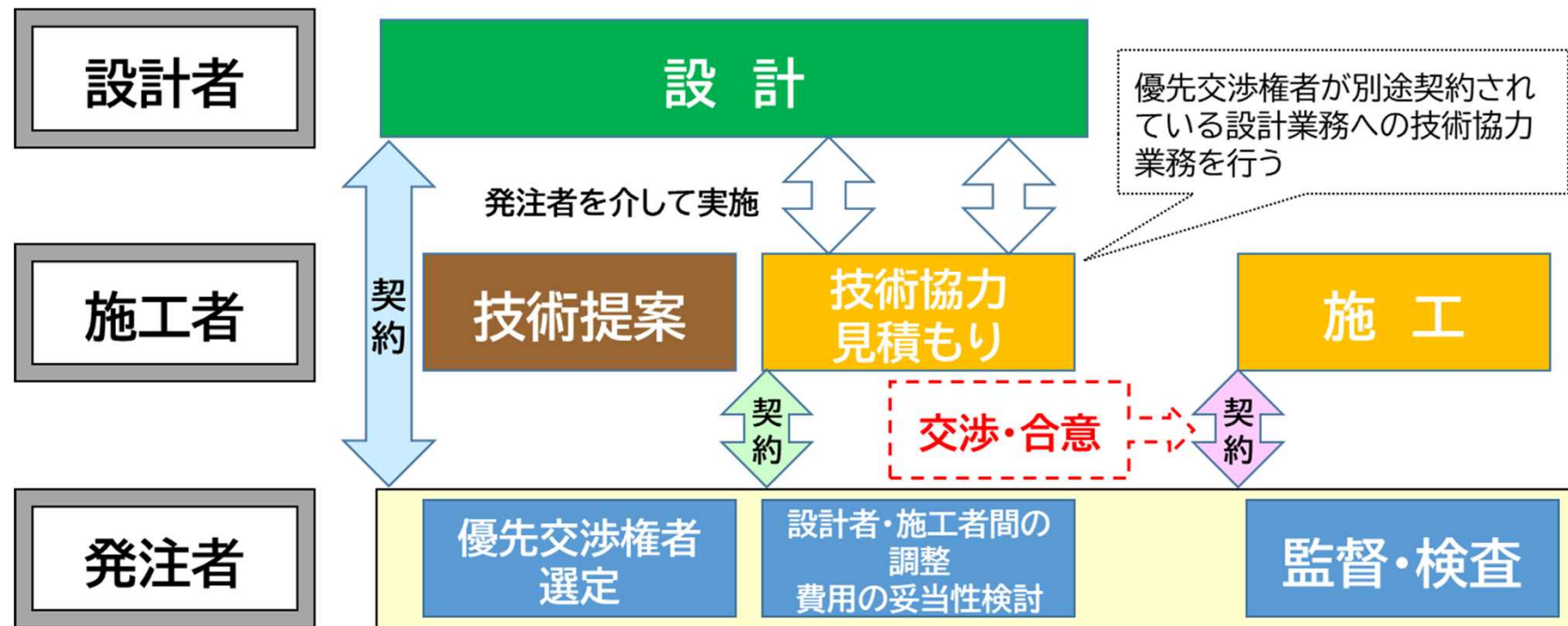
	項目	理由	増額	備考
新桂沢ダム	付替国道	・ R3発生の斜面変状により、対策費用の計上	約5億円	R4報告済
三笠ぽんべつダム	諸経費	・ 諸経費率の改定に伴う増額	約10億円	R3報告済

主な工種	コスト縮減策
	三笠ぽんべつダム（R4本体着手）
堤体工 （掘削、堤体打設、放流設備 等）	技術協力において下記の企業提案事項を反映 ・打設工法の見直しによる打設能力の増強 ・型枠形式の見直し ・製造設備の集約化
仮設備工 （骨材製造・コンクリート設備 等）	
道路工 （工事用道路、付替道路）	
管理設備工 （通信・警報・観測設備、建物 等）	・使用材料規格の変更や現地発生土の有効利用など、他ダムのコスト縮減策や新技術について適用可能なものがないか、引き続き調査を進める。
その他工事 （地すべり対策、法面对策 等）	
諸調査 （測量、設計、環境調査 等）	

ECI（技術協力・施工タイプ）の採用

- 技術提案・交渉方式は、一般的な「工事の施工のみを発注する方式」と異なり、設計段階から施工者が参画し、施工者独自の高度で専門的なノウハウや工法等を活用することで事業の効率化が期待できる。
- 技術提案・交渉方式の適用が考えられる契約方式は、「設計・施工一括発注方式」又は「設計段階から施工者が関与する方式（ECI方式）」の2種類である。

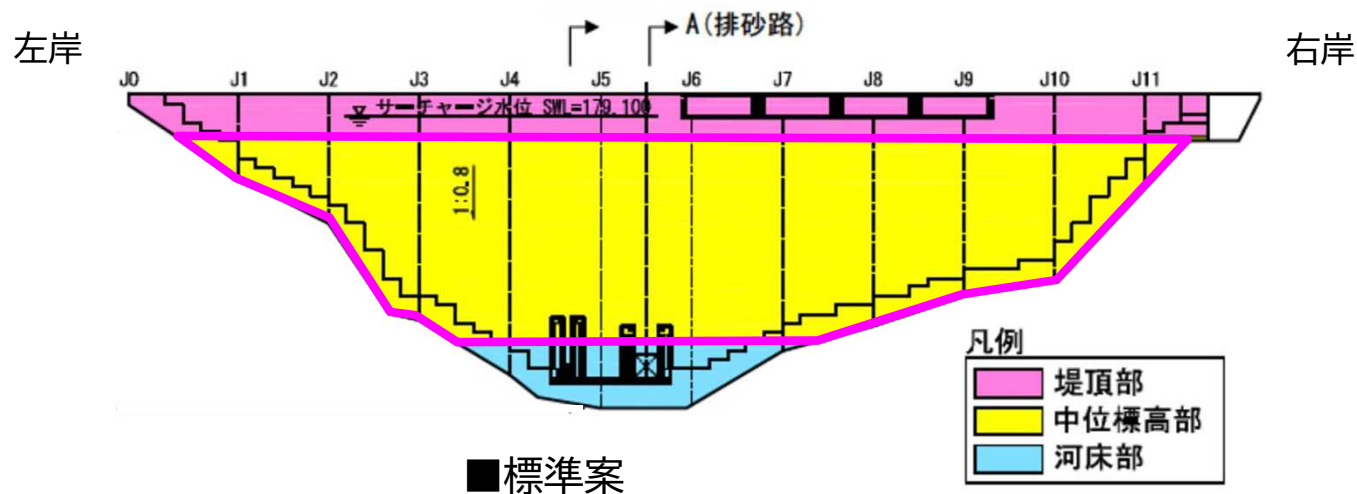
【ECI(技術協力・施工タイプ)方式の導入イメージ】



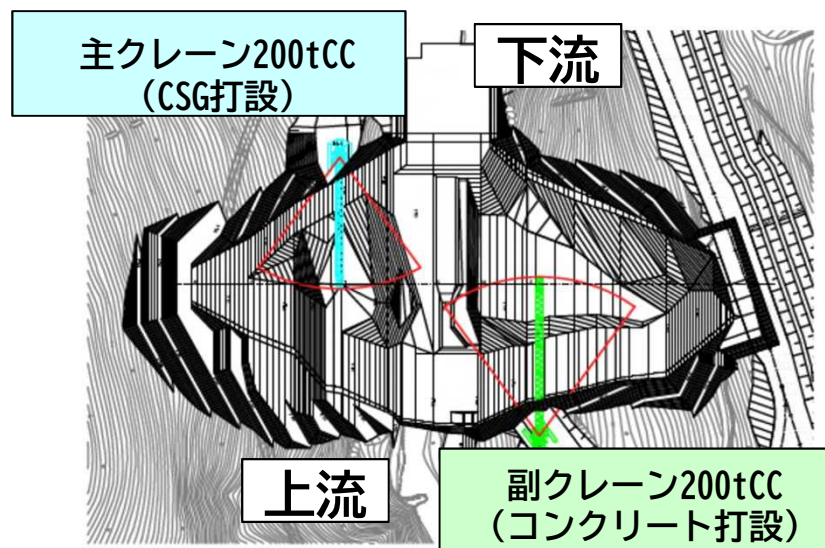
- 三笠ぽんべつダムにおいては、ダム基本設計会議において諸元等が定まっているため、施工者による設計は必要なく、施工者独自の高度で専門的な工法などで施工計画上の課題解決を期待するECI方式の「技術協力・施工タイプ」を採用する。

ECIの成果（打設工法の見直しによる打設能力の増強）

- 構造物がなく、施工効率を上げることが可能な中位標高部のCSG打設にSP-TOMを用い、標準案（※）のクレーン打設よりも運搬量を増加することで、作業の効率化を図ります。



（※）標準案とは
公告時に提示している設計図書（数量
総括表、特記仕様書、図面）の内容



クレーン配置図



写真 SP-TOM

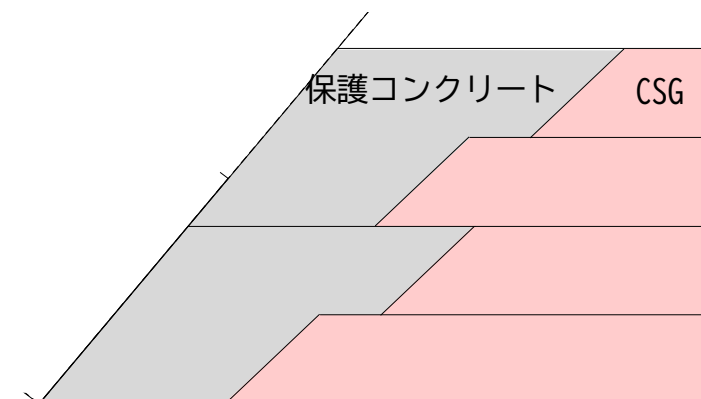
- プレキャスト型枠を技術提案において置き型枠へ変更することで、型枠自体のコスト低減を図ります。

■標準案（プレキャスト型枠）

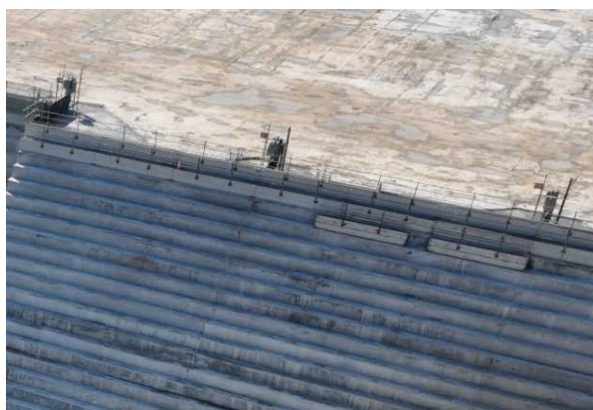


プレキャスト型枠による堤体表面と設置例

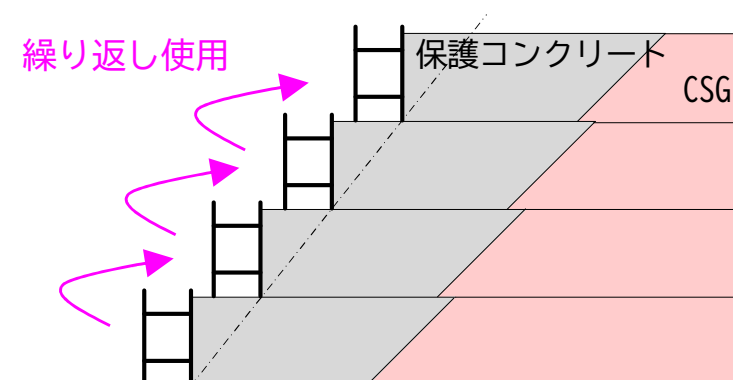
台形CSGダム の堤体表面には、耐久性を確実にすることを目的とした保護コンクリートを配置



■技術提案

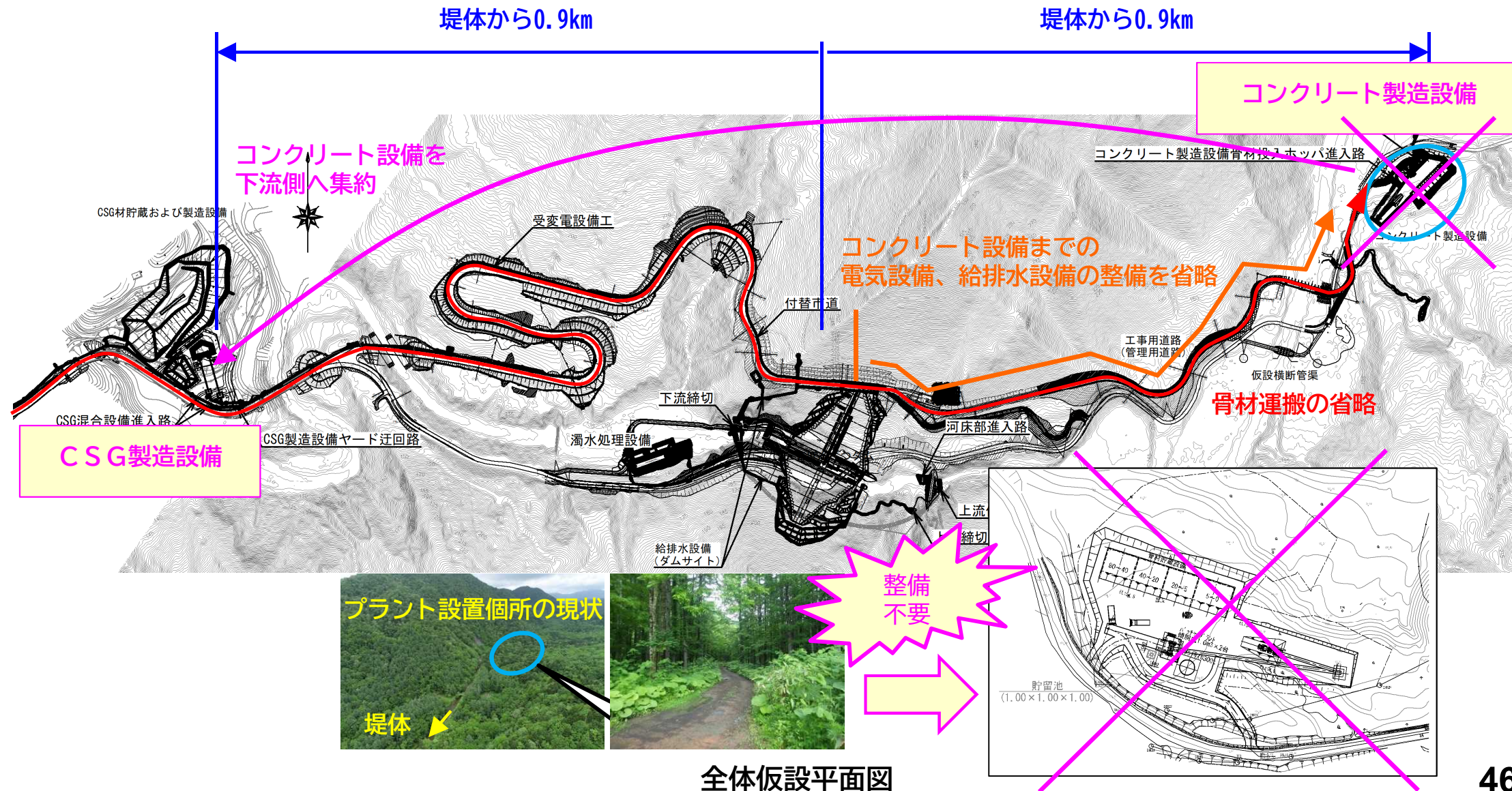


置き型枠による堤体表面と設置例

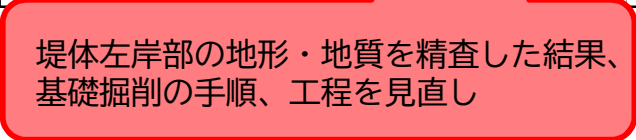


ECIの成果（製造設備の集約化）

- 技術提案において、コンクリート製造設備の配置を見直すことで『製造設備ヤードの造成』『コンクリート骨材の運搬』『電気設備の延伸』『給排水設備の整備』を省略し、作業の効率化を図ります。



- 技術協力業務にて、基礎掘削の手順・工程を見直し。また、技術提案（SP-TOMを用いたCSG打設、置型枠を用いたコンクリート打設等）を加味し、標準案よりも工程を短縮できる見込み。引き続き、工程監理に努めてまいります。



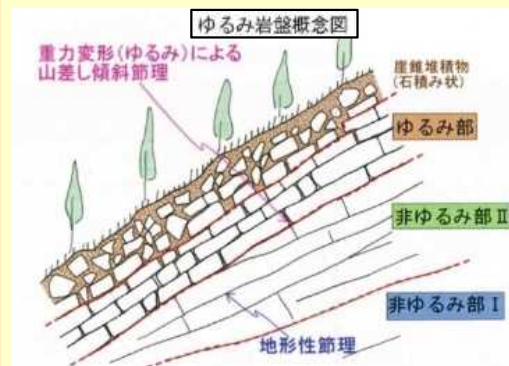
- 事業費の増額要因である様々な不確定要素に対して、今後も留意しながら事業を進めます。

■自然現象による不確定要素の事例



大雨による道路法面の小規模崩壊 等

■現場条件の変更による不確定要素の事例



局所的なゆるみ等による基礎掘削範囲や量の変更 等

■社会状況の変化による不確定要素の事例



想定していた以上の人件費および物価上昇 等

■試験湛水による不確定要素の事例



貯水池周辺地すべりブロックや斜面の変状 等

4. まとめ

- 融雪等による付替道路の一部変状等进行处理しましたが、事業費・工程への影響はないと考えています。
- 7月25日に発生した付替林道（補強土壁）の一部崩落については、対策工の検討及び設計・施工を進めます。
- 総事業費約1,667億円の内、令和6年以降の事業費は約368億円であり、第4回計画変更後にコスト増減がありましたが、これまでの増減を合算すると約32億円縮減の見通しとなり、総事業費の内数に収まっています。
- 引き続き、今後の物価上昇等に留意し、総事業費および全体工程の監理に努めます。

見学会・意見交換会等の開催

- 広く一般の方々に事業に対するご理解をいただくことを目的とした「見学会・意見交換会」を令和5年7月29日に開催しました。
三笠市をはじめ、札幌市、岩見沢市、美瑛市、千歳市、富良野市、新篠津村、美瑛町から計39名の方にご参加いただきました。
- 三笠ジオツアーやインフラツーリズムのほか、地元小学校等に見学していただくなど、令和5年度は7月末までに計14回（延べ356名）の方々に見学していただいています。

新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダム 見学会・意見交換会を開催しました

令和5年7月29日、新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムを建設する幾春別川総合開発事業について、一般の方々に広くご理解を頂くため、ダムの建設現場等の見学を行うとともに参加者と意見交換会を実施しました。ダム建設予定地の三笠市をはじめ、札幌市、岩見沢市、美瑛市、千歳市、富良野市、新篠津村、美瑛町より、計39名の方々にご参加頂きました。

新桂沢ダム展望台



新田ダム堤体部



新桂沢ダム監査廊内



三笠ぼんべつダム建設予定地



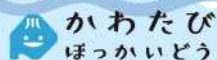
参加者からのご意見・ご感想

ご参加された皆様からは、「ダムの機能や建設目的を知ることが出来て学びになった」「近年雨が降ると大雨になるので、各所で治水が大事だと思う」等のご意見をいただきました。

今回の見学会・意見交換会を通しアンケートにご協力いただいた結果、事業についての「理解度がとても深まった」「内容に満足した」と数多くいただきました。



北海道開発局 札幌開発建設部 幾春別川ダム建設事業所



その他 視察・見学対応



三笠ジオツアーの視察状況



三笠市立岡山小学校の視察状況